

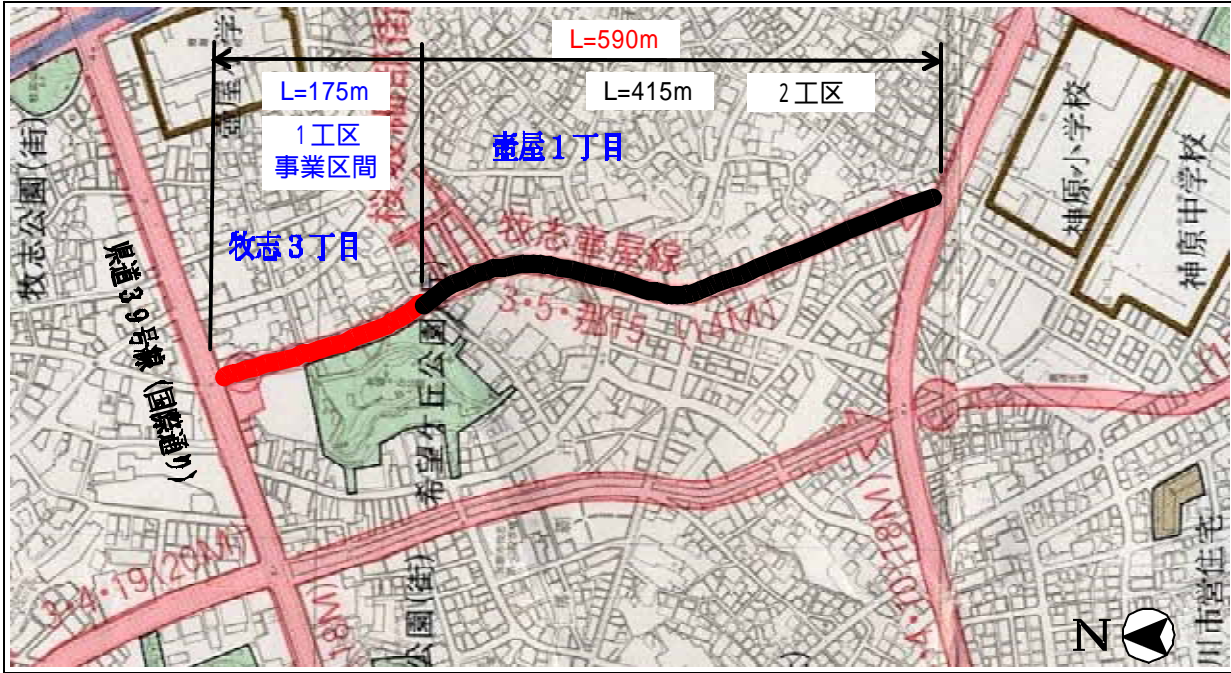
再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：沖縄総合事務局開発建設部建設産業・地方整備課
担当課長名：竹富 信也

事業名：都市計画道路 牧志壺屋線（1工区）	事業区分：街路	事業主体：沖縄県那覇市			
起終点：自 沖縄県那覇市牧志3丁目 至 沖縄県那覇市壺屋1丁目		延長：0.590 km			
<p>事業概要：都市計画道路牧志壺屋線は、那覇市の中心市街地に位置し、県道39号線（国際通り）を起点に、壺屋地区を通り、市道壺屋松尾線を終点とする延長590mの補助幹線道路であり、平成11年3月に策定された「那覇市中心市街地活性化基本計画」において、中心市街地の活性化と本市の観光に寄与する重要な役割を担う路線として位置付けられている。</p> <p>本線は、本市における中心市街地の活性化及び交通渋滞の緩和、防災機能の向上とあわせて歩道の確保による安全で快適な街づくりを図る目的で整備を行う。</p>					
H6年度事業化	H4年度都市計画決定 （H19年度変更）	H7年度用地着手			
H12年度工事着手					
全体事業費	92億円	事業進捗率：74%			
計画交通量	7,300台/日	供用済延長：0.175 km			
費用対効果分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">B/C： （事業全体） 3.0 （残事業） 11.0</td> <td style="width: 40%;"> 総費用：（残事業）/（事業全体） 22/114億円 事業費：22/114億円 維持管理費：0.04/0.05億円 </td> <td style="width: 30%;"> 総便益：（残事業）/（事業全体） 251/343億円 走行時間短縮便益：243/332億円 走行費用減少便益：7.0/9.6億円 交通事故減少便益：1.4/1.7億円 </td> </tr> </table>	B/C： （事業全体） 3.0 （残事業） 11.0	総費用：（残事業）/（事業全体） 22/114億円 事業費：22/114億円 維持管理費：0.04/0.05億円	総便益：（残事業）/（事業全体） 251/343億円 走行時間短縮便益：243/332億円 走行費用減少便益：7.0/9.6億円 交通事故減少便益：1.4/1.7億円	基準年：平成20年
B/C： （事業全体） 3.0 （残事業） 11.0	総費用：（残事業）/（事業全体） 22/114億円 事業費：22/114億円 維持管理費：0.04/0.05億円	総便益：（残事業）/（事業全体） 251/343億円 走行時間短縮便益：243/332億円 走行費用減少便益：7.0/9.6億円 交通事故減少便益：1.4/1.7億円			
<p>事業の効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市の再生（農運市場地区市街地再開発事業との連携あり） （「那覇市中心市街地活性化基本計画」に位置づけられた路線である） ・国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する） ・個性ある地域の形成（「那覇市中心市街地活性化基本計画」、「NAHAぶんかテンプス整備事業」と併せて中心市街地の活性化と観光に寄与する） （那覇の主要観光地である国際通りや平和通りと、壺屋焼きの郷として知られる壺屋地区を結び、観光地へのアクセス向上が期待される） ・無電柱化による美しい町並みの形成（電線類地中化5ヶ年計画に位置づけあり） ・災害への備え（幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する） （密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす） ・他のプロジェクトとの関係（那覇市都市内幹線道路網整備プログラムに位置づけられている） <p style="text-align: right;">他2項目に該当</p>					
<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>県道39号線（国際通り）及び都市計画道路那覇内環状線の交通負荷の軽減と、関連事業である那覇市ぶんかテンプス館の集客の向上等、中心市街地の活性化と観光に寄与し、周辺地域の壺屋神里原通り会外3団体より早期整備の要請を受けている。（平成14年5月31日）</p>					
<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</p> <p>車社会の進展、住宅の郊外化、流通の変化による郊外大型店の進出などにより定住人口の減少、商業の停滞等により、中心市街地がかつてのような求心力を失い空洞化している状況の中、本路線の整備によって、中心市街地の商業活力の向上と定住化の促進及び交流人口の増大などの整備効果が期待でき、周辺地域および那覇市全体に波及効果をもたらすことが期待されている。</p>					
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等</p> <p>用地取得率は100%であり、現在0.175 kmを部分供用している。</p>					
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</p> <p>一部の地権者において用地補償額に対する不満や、相続問題などにより用地補償交渉に期間を要したため事業進捗の遅れとなったが、引き続き事業の進捗に努め平成21年度に完了予定である。</p>					
<p>施設の構造や工法の変更等</p> <p>再生材の使用により、資源の有効活用を図る。</p>					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。